

$r=0.827$, $\overline{PAP}<30$ mmHg ($n=22$) で $r=0.249$ であった. (iii) $\overline{PAP}$ と RVEF の相関は $r=-0.727$, $n=30$ であった. [考察] 心筋シンチグラフィにおいて右室の描出は相対的な指標である. つまり, 左室, 肺などの摂取に左右される. このため $\overline{PAP}\geq 30$ mmHg では, $\overline{PAP}$ と RVUR の相関は高かったが, $\overline{PAP}<30$ mmHg では, 右室の負荷を示していなかった. この点, 心プール・シンチグラフィにおける右室駆出率は, $\overline{PAP}$ と RVUR の相関は高く, 右室負荷の早期指標として使用しうる.

22. 運動負荷心筋スキャンによる虚血部位, 重症度の評価——additional parameter の併用による——

西村 恒彦 植原 敏勇 林田 孝平
小塚 隆弘 (国立循環器病セ・放診)
住吉 徹哉 斉藤 宗靖 (同・内)

過去 3 年間に施行した負荷心筋スキャン連続 1,500 例中, 労作性狭心症 (梗塞非合併例) にて冠動脈造影を施行している SVD 52 例, DVD 37 例, TVD 37 例にて虚血の重症度評価を行った. 全体として, ECG, TI スキャンの検出率は, 77%, 86% であった. 冠動脈枝別では LAD 71%, RCA 62%, LCX 50%, 狭窄度別では, 75% 狭窄 23%, 90% 狭窄 73%, 99% 狭窄 82%, 100% 狭窄 75% であった. また, slow washout の併用にて, TVD 37 例中 25 例 (68%) にて検出できた. さらに, 肺野のタリウム活性は SVD で, 冠狭窄度および多枝病変に一致して, 上昇した. また, 多枝病変でも, 冠狭窄度が増加するほど上昇した. 以上の成績は, 視覚的な一過性欠損像の検出に加え, slow washout および肺野タリウム活性の併用により, SVD, DVD, TVD の鑑別が可能であり, またその重症度も評価できることが示された.

23. 陳旧性心筋梗塞症の局所壁運動異常——ISMN による検討——

木村 穰 岩坂 壽二 森 晃基
小糸 仁史 斧山 英毅 稲田 満夫
(関西医大・二内)
夏住 茂夫 松本 掲典 白石 友邦
(同・放)

陳旧性心筋梗塞症 (OMI) における局所壁運動につき, 新たに開発された亜硝酸剤 ISMN (isosorbite-5-mononitrate: TY-10368) を用い比較検討した.

OMI 12 例に ISMN 30 mg 服用前, および 30 分後に $^{99m}\text{TeO}_4^-$ による first pass 法を multicrystal gamma camera, system 77 を用い, 前方向より安静臥位にて施行した.

ISMN により, 収縮期血圧は 134 ± 16 mmHg より 114 ± 12 mmHg と有意に低下するも, 拡張期血圧, 心拍数は有意の変化を認めなかった. 左室駆出分画 (LVEF) は $36\pm 13\%$ より $41\pm 17\%$ と増加, 左室拡張末期容量 (LVEDV) では全例減少を認め 140 ± 65 ml より 118 ± 68 ml と変化した. 心拍出量は 2 例にて増加を認めた. 次に局所壁運動をより詳細に検討するために, 左室局所駆出分画 (LVREF) 図より visual に梗塞部 (I), 非梗塞部 (N) を設定し, 対応する各クリスタルの REF の平均値より I-REF, N-REF を求めた. I-REF は $25\pm 10\%$ より $31\pm 11\%$ と有意に増加するも, N-REF は $46\pm 16\%$ より $48\pm 18\%$ と有意の増加はなかった. I-REF の改善は, I の設定にその周囲の虚血巣をも含んでいるために ISMN により著明に改善したと思われる. 次に LVEDV 110 ml 以上を A 群, 110 ml 未満を B 群とすると, A 群では I-REF, N-REF とともに改善するも, B 群では I-REF のみに改善を認めた. このことは, A 群では非梗塞部といえども心室拡大による LVEDV の増大が正常心筋にも負荷を課しているために, ISMN による EDV 減少が心ポンプ機能改善をもたらしたと思われる.

OMI において ISMN による局所壁運動の変化につき, 局所駆出率による検討は, 心ポンプ機能を詳細に検討する上で, 有用であると思われる.